ISSN 0388-4732

石川県白山自然保護センター普及誌

はくさん

白山室堂リニューアル特集号　　第30巻　第2号

室堂センターリニューアル完成

室堂センターのリニューアルを記念し、また、「白山国立公園指定40周年」および「国際山岳年2002」にあわせ、平成14年8月2～3日に谷本石川県知事も白山に登山し、「白山室堂リニューアル・オープン記念行事」が行われました。2日は、「室堂リニューアル・オープンの夕べ」が、翌3日には「白山室堂リニューアル・オープン記念式典」「白山室堂座談会・21世紀の白山を語ろう」が開催されました。また、歌手のみなみらんぼうさんをゲストに招き、いっしょに白山に登る「らんぼうさんと白山に登ろう」が一般参加者を募集して行われました。

平成11年から食事の提供の中止により1万人台に減少していた室堂宿泊者数は、リニューアル完成で食事の提供も再開され、今年は久しぶりに2万人台を回復しました。

白山室堂リニューアル・オープン記念行事

室堂リニューアル・オープンの夕べ

「室堂リニューアル・オープンの夕べ」は、風雨が強く、完成した室堂センター内のレクチャーホールで行われました。オーケストラ・アンサンブル金沢の西本美樹さんによるフルートの演奏の後、谷本石川県知事が挨拶しました。

オープンの夕べのメインゲストは、宮城県生れで、シンガーソングライター、エッセイストとして活躍されている　みなみらんぼうさんです。「らんぼう流、山の楽しみ方」と題したトークショーが行われました。レクチャーホールは満員で、立見の人や入りきれない人が出るほど盛況でした。3年前にも白山に登ったらんぼうさんは、その時もガスのなかをカッパを着て室堂までたどり着いたそうです。しかし、お宮さんで手を合わせ拝んだらパーっと雲がわれ、槍ヶ岳、穂高も見える日本晴れになったそうです。それ以来、“南晴れ男”と自称するようになったとのエピソードが紹介されました。「それにしても今日は南晴れ男よりも、もっと強力な雨男、雨女がいたに違いない。」と、ユーモアを交えながらの楽しいトークショーが始まりました。

白山に来る前、フランス・スイス国境ピレネー山脈に行ったときの感想がのべられました。まずらんぼうさんが驚かれたことは、向こうのバカンスの過ごし方が家族単位であるということです。キャンプサイトがたくさんあり、テントやキャンピングカーが皆家族単位で、しかも、おじいちゃん、おばあちゃん、孫まで一緒にアウトドアを楽しんでいる。もちろん友人同士でやることもあるようなのですが、若い人とお年寄りが一緒に交じって行動する姿が目についたそうです。また、農場の前では、お父さんが大きな草刈機で草を刈っていて、子供はその草をかき集め、お母さんが運転するトラックに積んでいる。そうやって家族で力をあわせて仕事をしている姿を見て、昔の日本の姿を見たような気持ちになったそうです。今の日本では、家族の絆がいつの間にかとぎれて、若い人は若い人、年寄りは年寄りというように世代が隔離され、核家族になってしまっている。そしてそれは、戦後日本社会が、スピードに価値観を求めてきたためで、おじいちゃんは置いてきぼり、子供は危ないからどいていなさい、というようにみんなの歩調があわなくなったからだとの指摘がありました。何もかも、効率を求めすぎると、本当の豊かさとか、ゆとりとかを噛みしめる余裕も

なく通りすぎ流されていくというのです。そして歩く速度、これが人間の一番根源的速度です。みんなが互いに手をつないだり、会話をしたり、障害を持った方とも一緒に歩むことができる「歩く速度への回帰」を提言されました。

また、白山については、日本を代表する山で、槍ヶ岳や穂高のようにある程度の技術がないと登れないという山ではなく、年をとってからでも子供でも一緒に手を引きながら家族で登れる自然の豊かな山で、そういった意味でも、白山はたいへん貴重な文化遺産、自然遺産ではないかと思うと語られました。

「らんぼうさんと白山に登ろう」でその日にあった出来事にも触れられました。登山途中の小さいけれども貴重なドラマでした。雨の中を立ったままで参加者全員が休憩をしていた時のことです。オコジョがネズミをくわて参加者の足元を走り去るのが観察できたのです。同行した自然解説員の解説によると、「あれはおそらくメスだろう、オスだったらきっとネズミを置いて逃げてしまうだろう。」と。そのとき、らんぼうさんはオコジョのお母さんは子供のために命がけで子供のところにえさを運ぶ姿を一瞬ですが垣間見ることができた。良いものをみたと。そして、このような野生のふるえるような動植物の動き、瞬間を目の当たりにするということは貴重なことであると言われました。特に子どもの時のその瞬間を大事にしたい。「まぶたのシャッターを人生の中でどれくらい切るか。そういう瞬間に出会って、我々は生きていて良かったな、またいいことがあるかな、と思いながら希望を持っていける。」と話してくださいました。

最後に中高年登山については、「若いときの登山は、心身を鍛える、友情を培う、忍耐を養うというものである。しかし中高年の登山は、やすらぎ、癒し、思い出を紡ぎながら将来を展望する。それを目指せばよい。そういう意味で、登山は中高年向きなのかなと感じる。健康はゆっくり山歩きをしていれば、ついてくるものです。」と話され、「皆さんも健康で安全な登山を楽しんでほしい。」と締めくくられました。

白山室堂リニューアル・オープン記念式典

8月3日の早朝は、濃い霧でしたが、谷本知事をはじめ、多くの参加者が山頂まで登り、登頂を喜びました。「白山室堂リニューアル・オープン記念式典」が始まる頃になると、前日の雨、朝方の曇り空がうそのように晴れ渡りました。

記念式典では、谷本石川県知事の挨拶、白山での永年の活動で功績のあった団体への表彰のほか、フルートの演奏や白峰村に古くから伝わる「かんこおどり」の披露なども行われました。

表彰された団体名と主な功績

団　体　名	主　な　功　績
(財)白山観光協会	室堂施設の管理運営、登山者の安全確保に貢献した。
(財)日本気象協会首都圏支社北陸支店	夏山の気象観測と天気予報を継続し、安全登山の推進に貢献した。
金沢大学白山診療班	登山者等の緊急医療活動にあたり、安全登山および人命救助に貢献した。
白山自然保護調査研究会	白山に関する調査研究活動を行い、自然保護の推進に貢献した。
石川県自然解説員研究会	登山者等に対して自然解説活動を実施し、自然保護の推進に貢献した。
尾口村消防団	白山における遭難者の捜索および救助活動に尽力した。
白峰村消防団	白山における遭難者の捜索および救助活動に尽力した。
吉野谷村消防団	白山における遭難者の捜索および救助活動に尽力した。

白山での活動に功績があった団体が表彰された

かんこおどり

白山室堂座談会　21世紀の白山を語ろう

パネリスト

みなみらんぼう

谷　本　正　憲	（石川県知事）
二　神　紀　彦	（環境省中部地区自然保護事務所白峰自然保護官）
南　　修	（白山連峰合衆国大統領）
谷　野　喜代子	（石川県自然解説員研究会）
太郎田　真　理	（司会）

今回の登山の印象

（谷本）今回、10年ぶりに登ったが、今回の登山はとても印象深いものであった。昨日、雨、霧、雷の中を室堂まで必死に登ってきた。今朝もご来光を拝むため山頂まで登ったが、ガスだった。ところが下りてきたら晴天になった。10年前は2日とも晴天で、ある意味では白山の一部の姿しか見ることができなかったように思う。今回は豪雨あり、雷あり、晴天ありでまさにいろいろな姿を凝縮した形で体験することができてよかった。

今回登山をしてきて、白山は歩いて登ってこそ意味があるのだと実感している。登山に6時間ほどかかったが、我々は時間をかけても、自分の体力に応じた形で登山するのが大事である。時間を競うだけが登山ではない。時間をかけて、高山植物などを楽しみながら登ってこそ意義があるのではないか。

（太郎田）「自分の足で登ってこそ」という話がありましたが、日本3名山である立山はぎりぎりまで車で登れ、気軽なハイキングといった感じがします。それに比べて白山はすばらしい山ではないでしょうか。白山は奥ゆかしいところに誇りを感じるのですが。

海外の山も含めて多くの山に登っていらっしゃる、らんぼうさんは白山についてどう思いますか。また、登山をどういう動機で始めたのか、どういうことでやみつきになったのか、お聞かせいただけないでしょうか。

左から　司会者、みなみらんぼうさん、谷本石川県知事

（みなみらんぼう）東北の宮城県の栗駒山麓で育った。この山は、雪が降ると真っ白な駒のかたちになるので栗駒山と称されている。中学校1年のとき、学校登山で有無を言わさず登らされたのが最初。やはり東北なので標高1,626mという低山でも夏には雪渓がある。雪渓があると雪が溶けるにしたがい高山植物が順々に咲いていく。そういう意味では白山と同じ、高山植物に恵まれた山だった。学校登山のとき、ミカンの缶詰を持っていき、その中に雪渓の雪を入れてかき氷のようにして食べた。それほど雪が清浄だった。それから高度経済成長期になり高校時代に登ったときは雪を少し削ってきれいなところだけ入れて食べた。大学のときは、山も排煙で汚れていてとても食べられる状態ではなかった。このように山を見ているだけでも世の移り変わりが分かった。

栗駒山の場合、登山道は途中までコンクリートで固めてしまっている。だから台風がくるたびに鉄砲水で土がえぐられ、コンクリートが浮き上がってしまっている。それに対して白山は固めるのではなく、石畳をひいている。たいへん良いことだ。お金、時間はかかるが、そこにあるものを使って道をおこすというのが、日本で古来から行なっていた技法である。

海外では山とは標高4,000m～6,000mのことをいう。それ以下の場所には遊歩道がたくさんある。リフトやケーブルカーを利用して登り、そこから下りてくるというようにリスクを背負わないで歩く楽しみを味わうことができる。観光化されている所なのである。しかし、そこから一歩上は岩と雪と氷と酸素の薄いところで標識もきちんとたっていない。そこからは地図とコンパスを頼りに自分の知恵と技術で歩かなければならない。観光客の世界ではなく登山者の世界である。このようにきちんと分けてある。しかし、日本は天気がよければスニーカーと半ズボンでどこにでも行ける。富士山に登っても日帰りができるという状況なので、遭難が多いのだ。それで標識がなかっただの、ガスで見えなかっただのと言い、それに対して行政が甘やかしているので、本来の登山に対する知恵のようなものが育たない。「白山くらいは自分の足で」という知事の言葉に同意する。自分の足で登る自信のない人は遠慮してもらった方がよい。

白山は頂上にも高山植物があるし、登った達成感もあり、展望もよい。三拍子そろった山である。これからも守ってほしい。

白山の魅力とは

（谷本）私でも頂上にたどり着ける山である。山道の両側には多種多様な花が咲いていて、そういうお花畑を身近に見ることができる。歩いて登ることによって、より大きな親しみを持てるという

大事なお山である。県民の誇り、国民の誇りであり、共有の財産である。たんなる理屈ではなく、肌で感じとれるという意味で好きになった。また挑戦したい。

また、石川県民にとって白山は、生きていくために不可欠な水源である。その恩恵を受けているのは加賀地域だけではなく、能登の人もパイプラインを通じて受けている。

（二神）4月に赴任してきたばかりでまだ4か月しかたっていないが、白山に何度か登ってきれいな景色を楽しんだ。先ほど知事が言っておられたように、ゆっくり歩いて植物、動物など楽しみたい。そして白山国立公園の自然をこの身で感じたいと思っている。

平成7年に石川県と環境庁（現 環境省）とが合同で「白山緑のダイヤモンド計画」を始めた。この計画によって環境教育の場として使えそうな施設が、このように立派に完成した。今後は、建物だけではなくソフトの面での充実も石川県と協力してよりよいものにしていきたい。

自然保護という面では、白山はたいへんすばらしい自然がある。全国に28か所国立公園があるが、普通地域のない国立公園は少ない。また、世界的にも評価されていて昭和56年にユネスコのMAB計画（人間と生物圏事業計画）の中で生物圏保存地域にも指定されている。これは日本では全国で4か所しかない。このようにすばらしい自然が残されている白山を皆さんと一緒に守っていきたいと思う。

（南）白山連峰合衆国というのは、石川県内の白山麓1町5村が連携してこのすばらしい地を売り出そうという観光のための連合体である。

この白山のブナは、木の大きさでは白神山地のより大きい。白神山地のブナは日本海からの風の影響を受けるため、木としては小さい。白山麓のように樹齢200年をこえるブナがたくさんあるのは珍しい。一番大きいのは直径5.02mもあるのだ。そういうブナの原生林にたたずんでいるとブナのささやきが感じられる。

また、白山には白山信仰の道である禅定道がある。歴史的側面をもっていることもすばらしいところである。

そして白山は火山であるので、温泉がたくさんある。登山を終えた後や白山麓に遊びに来た帰りに温泉で汗を流すというような楽しみ方をしてほしい。白山麓には堅豆腐（かたどうふ）をはじめ固有の食、歴史、文化がたくさんある。登山を楽しんだあとには、白山麓の魅力も楽しんでいってほしい。

（谷野）昭和57年から自然解説活動をしている。約90名の会員は、シーズン中は室堂、南竜ヶ馬場に駐在し、観察会を行なっている。私たちは自分たちも勉強をしていかなければならい。そして登山者の方に少しでも喜んでもらえるような、思い出深い白山になるように心がけている。皆さんの手伝いができればいいなと思っている。

昨年いしかわ自然学校ができ、その一環でアメリカのヨセミテ国立公園に研修生として行く機会があった。さすがにヨセミテは規模が大きかったが、白山のほうが緑が豊かだし、花もあるし立派だと思った。改めて白山のよさを感じた。この豊かな白山をみんなで守っていきたい。

左から　二神自然保護官、南大統領、谷野自然解説員

21世紀の白山、これからの白山

（みなみらんぼう）昔の為政者は必ず山に登った。国見山、国見峠に登り、民のことを思ってその年の計画を立てたり策を練ったりしていた。知事も、もっと登って、思索にふけったり、政策を練ったりしたらどうか。そうすれば白山についても実感し、もっとよくなるのではないか。

（南）白山連峰合衆国では、今年から白山麓の魅力を発信しようと月に一度小さな旅を実施している。そして、観光ボランティアガイド「よぉござった」の方に地域独特の、特にガイドブックにのっていない面を案内してもらって、参加者に喜んでもらっている。石川県が進めている知的グリーンツーリズムの受け皿地域として、また、白山は無理だが、周辺の山なら登ってみたいという方々を案内できるようなガイドトレッキングの受け皿としても、いしかわ自然学校と連携していきたい。

白山は世界に売りだせるすばらしい宝物である。今、石川、福井、岐阜、富山で連携して21世紀の新しい白山を売りだそうとしている。「ホワイト・ヘリテイジ・ツーリズム」といい、6か年計画で企画しているが、実現したい。1999年に環白山広域観光推進協議会が具体的に動き出した。これとも連携して“白い国づくり”をすすめていきたい。白山についての紹介では、特に歴史的遺産、そこに住んでいる人々を丁寧に紹介していきたい。

（谷野）一度ではなく、何度もきてくれるような白山ファンを増やしたい。そのためにも登山道や施設など安全面での整備をお願いしたい。

（二神）地域連携をどうはかっていくかということと、環境教育をもっと充実させる必要がある。その中でも白山自然保護センターの学術研究にとどまらない啓蒙普及活動と、石川県自然解説員観察会の活動は画期的である。また、いしかわ自然学校もたいへん画期的であると思っている。

国立公園のきめ細やかな自然の保護の管理という面で地域との連携をどうはかっていくか、地域の団体とのパートナーシップというのを考えるべきだ。

（谷本）「適切な利用と保護」につきるが、利用は白山の歴史とか自然とかを念頭に置いて、保護は県民の盛り上がり、バックアップがないと成り立たない。行政だけでは難しい。県民の皆さんに白山のすばらしさを目で見て、肌で感じてほしい。そういった場を作るのが行政の役割である。

自然解説員を通じて多くの県民に石川県の自然、白山についての理解を深めてもらおう。いろいろな体験を積んでもらおう。このことが白山を大事にしながら、きちんとわきまえて利用しようということにつながるのではないかということで、いしかわ自然学校を始めた。これをよりどころに多くの方に参加してもらいたい。

白山は石川県側から見れば南の端、岐阜県側から見れば北の端にある。しかし、県境のバリアを取り除いて、白山を中心に考えれば、新しい切り口が見つかるのではないか。この考え方をもとに、石川、福井、岐阜、富山の白山を中心とした市町村全部が参加している環白山広域観光推進協議会ができた。これからはこのネットワークが大切になっていくのではないか。

室堂センター前で行われた座談会には多くの方が参加した

白山室堂リニューアル・オープン記念行事の最後は、白峰小学校6年生全員18名による　白山への誓いで締めくくられました。手作りの「いわな」のぼりを持ち、白山の空に、声高らかに響き渡りました。

白峰小学校6年生全員18名による　白山への誓い

白山への誓い

日本海を渡る人達の目印となった白山。

神々の住む山として大切にされてきた白山。

美しい高山植物の宝庫。

母なる川、手取川の源。

そしてふるさとの山としてみんなから愛されている山、白山。

ふもとには豊かなブナの森が広がり、たくさんの動物たちが暮らしている。

森がうみだした水は水田を潤し、人々の暮らしを支え、日本海の命をはぐくむ。

いつまでも美しい自然のままの白山であってほしい。

そんな願いを込めて、この“いわなのぼり”をつくり白山の空に泳がせました。

私たちは誓います、白山のすばらしさを心に刻み、ふもとに生きていることを誇りにします。

白山の豊かな恵みに感謝し、自然を愛する人になります。

ーらんぼうさんと白山に登ろうに参加してー

「初めて白山に登ったぞ」

角田　立江

登山口　別当出合での記念撮影「がんばるぞー」

高校時代に白山へ登るチャンスを逃して以来、ずっと心の片隅に残っていた「白山へ登りたい。」と言う気持。ついに実現しました。「ヤッター　最高。」しかし、この気持ちに到達するまでには、下山し筋肉痛がとれてからなので、3、4日かかりました。いっしょに登った仲間が新聞に載ったり、テレビで白山のニュースが流れたり、互いに写した写真ができ上がったりすると、今まで目にもとめなかった白山のニュースや高山植物が気になって仕方ありません。完全に白山症候群にかかりました。

実は、山に登る前は体調が悪かったので、不安でいっぱいでした。その上、雨女の異名をとる私は、ジンクス通りやっぱり雨を降らせてしまいました。南晴男さんこと、らんぼうさんのパワーもかなわず、雷まで呼びこんでしまいました。ただでさえ初めての登山で不安なのに、雨まで…なんて。おまけに頼りにしていた相棒は足がつる寸前でペースダウン。私達はどうなるの？

下山してくる若者達に「こんにちは」と声をかけられても、「ハァーハァー、ごんにちはー」って感じ。室堂へ着く30分前は、もう足を1歩前へ出すのが精一杯で、体力と気力と山との戦いって感じでした。おかげで到着した時には「やったー」と言うより目から熱いものが流れ「あー着いたー」という感じでした。

翌日は、あのひどい雨はどこへ行ったのって言う感じのすばらしい山姿でした。残念ながらご来光は見られませんでしたが、山頂までついに来たぞ、と言う達成感は格別でした。もう、忘れられません。

すがすがしい空気と、かわいくて鮮やかな高山植物。今まで、そんなに植物に興味がなかったのですが、自分の足で山に登り、自分の目で見、自分の肌で自然を感じたら、新聞や雑誌で高山植物を見つけようものなら、「うんうん、あったあった。」とうれしくてたまりません。

今度は絶対、ご来光と満天の星空を見るぞと意欲がモリモリ湧いてきます。必ず又、白山に登りたいと思っています。そして、次回はもっと楽しみながら山に登りたいなぁと夢を膨らませています。

「感謝、感謝の登山」

太田　紀子

『みなみらんぼうさんと白山に登ろうの応募があたったよ！』この一言から私の初めての登山が、はじまったような気がします。

らんぼうさんと一緒なので休憩時には、唄など歌って頂きながらの、のんびりとした、登山だろうから大丈夫！と思って、8月2日午前9時、別当出合を出発したものの、雨、雨、雨の登山でした。

足もとは川の道、空から大粒の雨、カッパの中は汗びっしょり、（これってもしかして最悪の登山かも？）しかし、登山道の脇に咲いている花、途中で見たオコジョ、自然解説員の方々の声に励まされながらなんとか室堂まで登る事が出来ました。夕食をおいしく頂き、登った！という充実感と何もしなくてもいいという解放感でぐっすり眠りました。

雨の中、ニッコウキスゲを見ながらの登山

3日は、ご来光こそ見れませんでしたが、昨日の雨が嘘のような晴天です。白山て、なんてきれいな山なんでしょう。なんて空気がさわやかなんでしょう。と感激しました。室堂リニューアルオープンの夕べ、記念式典、座談会に参加出来て、とっても意義のある登山でした。応募してくれた友達、一緒に登った人々に、感謝、感謝の登山でした。ありがとうございました。

「白　山」

西　君江

毎年、夏になると、白山に登りたいなぁと思っていました。今年は、新聞で白山室堂リニューアル記念行事「らんぼうさんと白山に登ろう」が目に止まり、すぐに応募。テレビではらんぼうさんの「中高年の登山学」を見たことがあり、山の魅力をよく知っているらんぼうさんと登れる！と楽しみにしていました。

8月2日(金)、いざ登り始めるとすぐに足があれ？右足太股の違和感。みんなについていくのに脱落してしまいました。何度か登ったことのある白山なのにと、うらめしく思いました。甚之助避難小屋までもまだなのに室堂まで大丈夫なのか、内心不安でいっぱいになりました。けれど私の先には雨の中、石川県知事やらんぼうさんも登っている。いっしょに来た友も登っていると思うと、必ず室堂まで頑張らなければと自問自答している自分がいました。途中の高山植物の美しい花に励まされ、みなさんのあたたかい愛情のおかげで室堂に着くことができ、ホッとしました。自分の足で登ることができたという今までにない達成感があり笑顔になる私がいました。

その夜、一瞬の星空。

8月3日、ご来光は残念。

いちめんクロユリ満開。

記念式典、座談会は晴天に恵まれ参加。

あっという間の2日間、楽しかった。

白山は何度登っても同じ気持ちにならない。必ず何か新しい発見があり感動できる山。白山の魅力なのかなと思う。今回の白山登山で、自分自身、心身ともに浄化され、ありがたいという気持ちになりました。大好きな白山にまた登りたいと思います。

室堂での記念式典後の記念撮影

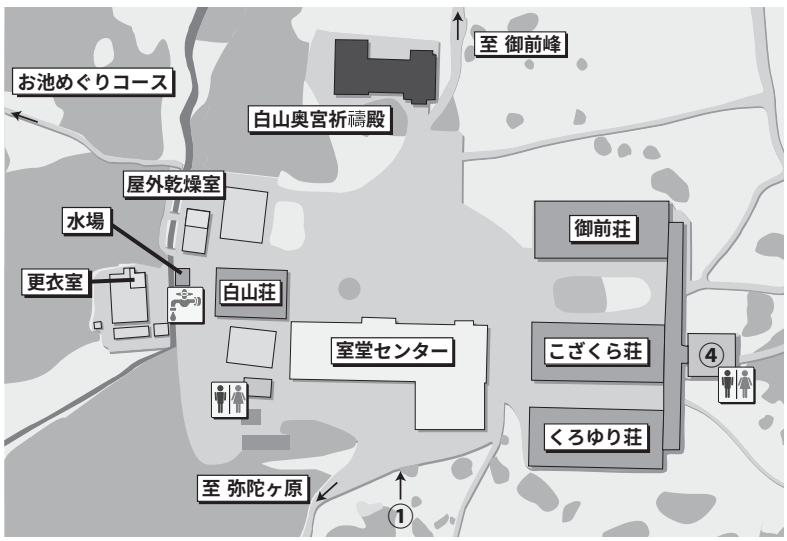
白山室堂リニューアル

小川　弘司

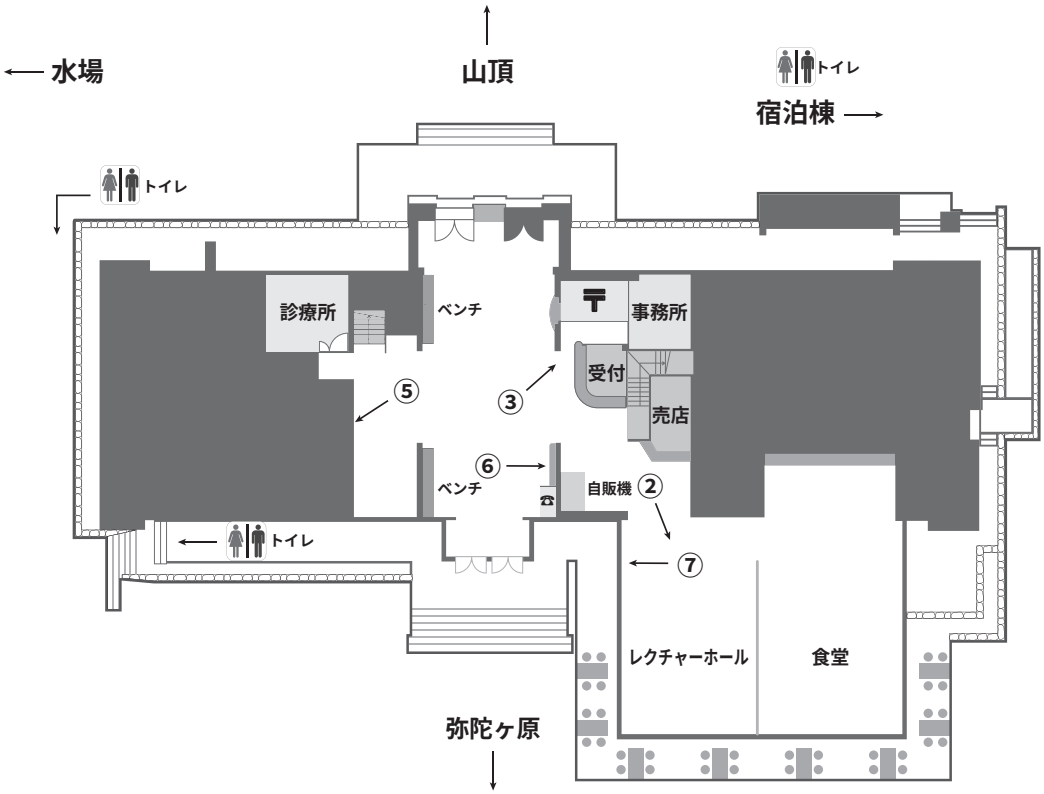
増築された食堂・レクチャーホール（右側）と新設された弥陀ヶ原側入口（①）

白山室堂センターの増改築

平成11年7月から全面的な増改築工事が行われた室堂センターが今年完成し、再スタートしました。眺望のよい場所に、新たに食堂・レクチャーホールが増築されるとともに、従来の白山山頂（御前峰）側の出入口に加え、反対側の弥陀ヶ原側にも出入口が作られました。また、診療所や郵便局などの施設も全面的にリニューアルされています。



白山室堂



室堂センター平面図

食堂・レクチャーホール（②）

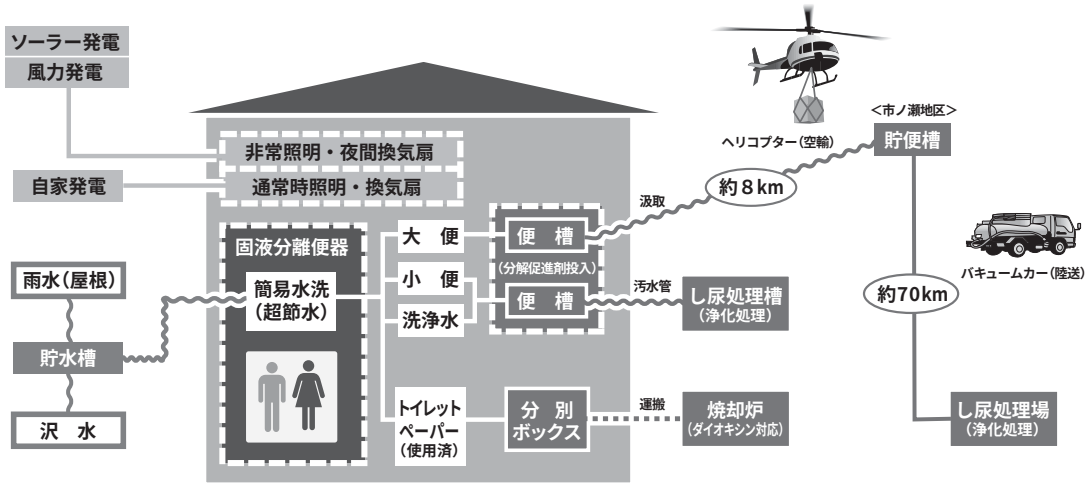
郵便局・受付（③）

3棟ある宿泊棟（御前荘、こざくら荘、くろゆり荘）には、乾燥室が新設されたほか、宿泊室の内壁や天井は張り替えられ、たたみも全て取り替えられました。

トイレは先進的なシステムが採用され、超節水型の簡易水洗トイレとなりました。夜間には非常用照明にソーラー発電を、換気扇稼動用に風力発電が導入されるなど自然エネルギーを活用した環境に配慮されたものになっています。

乾燥室
御前荘・こざくら荘・くろゆり荘に新設

環境に配慮したトイレシステム



このトイレは、節水型簡易水洗方式で、「大便」・「小便」・「使用済トイレットペーパー」の分離・分別により、し尿処理等を行っています。
特に大便の処理については、「汲取→ヘリコプター空輸→貯便槽保管→バキュームカー陸送→し尿処理場」と多くの行程を経て、処理されています。

※トイレの使用にあたっては、使用済みトイレットペーパーの分別、節水にご協力お願いします。

環境に配慮したトイレシステム（④）

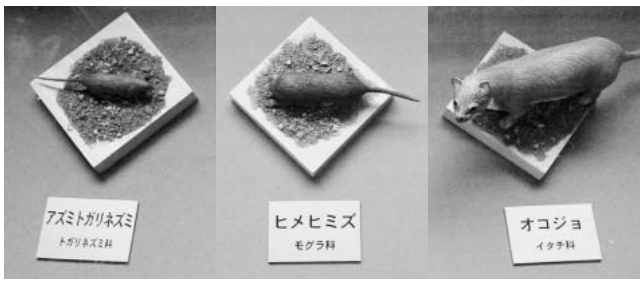
リフレッシュした展示

自然学習拠点としての充実を図るために、展示もリフレッシュしました。登山者にとって大切な気象・登山道の情報や周辺の自然観察を紹介する情報コーナーを設けました。白山の自然を代表する景観や高山植物については写真を多く使って紹介しています。地形や普段あまり見つけることができない鳥や小哺乳類については、模型を製作して展示しました。また、白山火山や白山信仰など白山を特徴づける内容については図や写真を使った解説パネルで紹介しています。

そのほか、周辺の案内看板や施設の利用案内についてもパネルを作成し、登山者の方の便宜を図るとともに適切な利用を促すようにしました。

白山登山道情報（⑤）

白山の高山植物（⑥）



小哺乳類の模型（⑦）

（白山自然保護センター）

施設だより　中宮展示館

暑い暑い夏がようやく終わり、美しい紅葉の彩りが中宮展示館の周辺でも見られ始めました。

7月から9月にかけての中宮展示館周辺での「白山まるごと体験教室」には、多数のご家族の方に参加していただきました。蛇谷川での川遊びシーズン7月27日、28日に開催した「川虫と川遊び」ではイワナ、ゴリ、ナガレヒキガエル、カジカガエル、カワゲラ、ヘビトンボたちが観察できました。7月7日の七夕の日に開催した「森人になる日」では、ブナの若い木が立派に育つために行う下草刈りを体験してもらうとともに、炭焼き釜跡などの見学など昔の山の暮らしに触れて楽しみました。ブナの森の中での二胡や合唱コンサートに酔いしれた「秋の音、ネイチャーコンサート」が開催されたのは9月22日。

ブナの森の中での二胡の演奏を聞いた
「秋の音、ネイチャーコンサート」

平成14年度の「白山まるごと体験教室」は、ほとんど終わろうとしていますが、当センターの平成14年度の最後の行事、冬のブナオ山観察舎周辺で行われる「かんじきハイキング」にも是非皆様方のご参加をお願いいたします。　（田中　稔）

市ノ瀬ビジターセンター

今年の夏は、室堂ビジターセンターがリニューアルオープンし、たくさんの登山者でにぎわいました。市ノ瀬ビジターセンターにも大勢の方が立ち寄られました。行きに寄られる方は、天気、花の状況が気になったようです。帰りに寄られた方は、皆さん一様に「よかったよ！」と、笑顔です。そして、何が一番素晴らしかったのかをうれしそうに話し、「また、来年も来たい。」という言葉を残し、市ノ瀬ビジターセンターを去っていかれます。

今年の夏は、県外からの登山者が目立ったように思います。この中には、たくさんの印象的な方々がいらっしゃいました。最も印象的だったのは、単独で縦走してこられた70歳代の女性です。若い頃から登山歴があるそうなのですが、現在は理由があって、一年に一度だけ、どこかの山を縦走しているのだそうです。帰りのバスを待つ間、「今、大都会に住んでいますが、一年で、山に行くことが、一番の楽しみなのです。」と話す表情が、とても満ち足りた、おだやかな笑顔であったのが印象的でした。また、60歳代のご夫婦でしたが、ぜひとも夫婦で白山へ登りたいという願いから計画を立てられました。そのための準備におこたり無く、事前情報を何度も確かめ、前日も、二人でルートの確認などをされる姿には、見ていて応援したくなるようなお二人でした。

多くの登山者でにぎわう市ノ瀬

市ノ瀬ビジターセンターに立ち寄られた方々からは、登山道に関する情報を、たくさんいただきました。この場を借りて、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

（三原ゆかり）

センターの動き（8月1日～10月31日）

8. 2～3　室堂リニューアル記念行事　（白山室堂）
8. 2～4　白山登山ピーク時の交通規制　（市ノ瀬）
8. 4　白山まるごと体験教室
「レンズで探る、白山麓のくらし」　（白峰）
8. 9～11　白山登山ピーク時の交通規制（市ノ瀬）
8.12～18　白山登山ピーク時の交通規制（市ノ瀬）
8.23　インターンシップ受入れ（本庁舎ほか）
8.25　県民白山講座「ブナ林の虫と生きものたち」
（白山国立公園センター）
8.27　大阪市立扇町高校講演　（中宮展示館）
8.30　白山自然保護調査研究会幹事会（職員会館）
9. 9　公設試研究機関連絡調整会議
（地場産業研修センター）
9.12　姫路獨協大学トレッキング　（中宮展示館）
9.13～16　白山登山ピーク時の交通規制　（市ノ瀬）
9.20～23　白山登山ピーク時の交通規制（市ノ瀬）
9.22　白山まるごと体験教室
「秋の音、ネイチャーコンサート」（中宮展示館）
10. 2～4　富山県自然公園協会研修　（本庁舎ほか）
10. 3～4　カモシカ保護全国会議　（富山大山町）
10.11～14　白山登山ピーク時の交通規制　（市ノ瀬）
10.11～14　まなびピア石川　（産業展示館）
10.13　白山まるごと体験教室「紅葉のブナ原生林1」
（市ノ瀬）
10.17～19　大阪府立大学生博物館実習
（本庁舎・中宮展示館）
10.19　白山まるごと体験教室「紅葉のブナ原生林2」
（市ノ瀬）
10.26　白山まるごと体験教室「紅葉のブナ原生林3」
（市ノ瀬）

編集後記

今号は、8月2、3日に行われた室堂リニューアルオープンの夕べ、室堂リニューアル完成記念式典、座談会　21世紀の白山を語ろうについて特集しました。また、記念式典にあわせ開催した「らんぼうさんと白山に登ろう」に参加の角田さん、太田さん、西さんから行事の感想をいただきました。ありがとうございました。

本誌中にも書かれていますが、8月2日は雨の中の登山、3日の朝も濃いガスで御来光は望めず、記念式典も室堂センター内でかと思われていたのですが、みるみるうちにガスが晴れ、太陽も顔を覗かせ、青空の下での式典となりました。今後は室堂センターを拠点とした自然解説活動を充実していくこととしていますので、多くの方に参加していただき、より深く白山について知り、楽しんで下さればと思います。（野上）

白山では珍しい花を3つつけたクロユリ。3日の朝、見つけました。

目　次

白山室堂リニューアル特集号

表紙　室堂センターリニューアル完成 …… 1
白山室堂リニューアル・オープン記念行事 …… 2
－らんぼうさんと白山に登ろうに参加して－
「初めて白山に登ったぞ」……角田　立江…10
「感謝、感謝の登山」……太田　紀子…10
「白山」……西　君江…11
白山室堂リニューアル ……小川　弘司…12
施設だより　中宮展示館 ……田中　稔…15
市ノ瀬ビジターセンター ……三原ゆかり…15

はくさん　第30巻　第2号（通巻124号）

発行日　2002年10月31日（年4回発行）
編集発行　石川県白山自然保護センター
920-2326　石川県石川郡吉野谷村木滑ヌ4
TEL0761-95-5321　FAX0761-95-5323
URL http://www.pref.ishikawa.jp/recr/hakusan/haku.html
E-mail hakusan@pref.ishikawa.jp
印刷所　株式会社　橋本確文堂

本誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています